

平成 29 年度

インターンシップ等専門人材ワークショップ〔関西地区〕

(資 料)

長期インターンシップの取り組み

平成 29 年 11 月 6 日 (月)

兵庫国際交流会館

共愛学園前橋国際大学 COC 事務局

COC コーディネーター 清水弘己

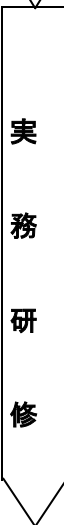
長期インターンシップの流れ

- ～研修生の取り組み～
- ・ねらいやめあてを持つ
- 事前研修会（9/15～9/21）
- ・研修先の理解
 - ・自己理解
 - ・日程等、実習に向けての留意事項の確認
-
- ・実習の全体把握とミッションの確認
 - ・ミッション、モチベーションの高揚
 - ・幅広い知見



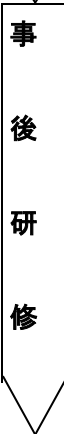
- 研修先関係者との顔あわせ会
- ・目的・ねらいの明確化
- 研修ファイルの作成
- ①研修先の概要 ②自己分析（強み：長所、得意 弱み：短所、苦手）アピールポイント ③自己PR ④志望動機
 - ⑤主な実務研修スケジュール ⑥通勤方法・経路 ⑦勤務時間・緊急連絡先
 - ⑧実務研修担当者 ⑨実務研修日等スケジュール
- プレゼン資料作成
- 前年度研修生からのアドバイス
- マナー研修
- 取材型インターンシップ
- ・政策部長、教育長

- 実務研修（9/23～1/27）
- ・学生生活から就業へと意識の転換
 - ・実習
-
- 中間報告会（10/10・11/23）
（12/23）
- ・自己点検、振り返り
 - ・課題や解決策等の共有



- 受け入れ式
- 日報の作成（担当者から検印）
- 連絡会
- ・研修先担当者等と大学担当で研修生の取り組み状況や研修の推進について情報交換を行う
- 振り返り、課題解決・方策
- ・研修生の研修状況等についてそれぞれ報告し合い、課題や改善点等について共有する

- 事後研修会（2/6～2/10）
- ・実習のまとめ
- 成果報告会（2/14）
- ・研修の評価



- まとめ
- ・グループワーク等で成果と課題についてまとめ共有する
- 成果報告会
- ・研修のまとめを研修先の方々や大学関係者等にプレゼンで発表し成果と課題を明らかにする
- 評価委員会

○次年度に向けての構想

評 価

1. 自己評価

インターンシップを通して、自分に身についたと感じたスキルと今後もっと身につけるべきだと感じたスキルをインターンシップ開始から2ヶ月経った時点と終了した時点で自己評価を行った。具体的には2ヶ月経過後の自己評価は評価項目を参考に評価を行い、4ヶ月後の自己評価は評価項目にとらわれずに、自らの体験を通して気付いたこと、感じ取ったことを自己評価し、まとめを行った。

インターンシップ終了後の事後研修の中でグループワークを行い互いの成果を確認し合うと共に課題を共有し、今後の大学生活がより充実したものになるよう振り返られるようにした。これは自己評価の観点を豊かにするとともに今後の学生生活を主体的・能動的に学んでいこうとする力を育てていきたいと考えたからである。自己評価は以下のようである。

身に付けるべき力や能力

①コミュニケーション力

- ・初めて会う人も多く、その中で自分の意見を言わなくてはならない場合もあり意見を求められた時に自分の考えをまとめて相手に分かるように伝えること。
- ・挨拶をしたり、自然な笑顔で自分から話しかけたり、話題の提供や相手を意識して話を振ったりすることができること。
- ・小さなことでも何かあったら担当者に報告、連絡、相談すること。
- ・自分の考えを言葉に出して伝える事で、自分を知ってもらえることができるということ。
- ・話を聞くときは身体や顔を相手に向け、相槌などしながら聞くこと。
- ・相手や場に応じて話し方や言葉遣いを使い分けること。

②主体的な行動力

- ・不安なことや分からないことがあっても「分からない」で終わらせないで自ら進んで取り組み、納得のいくまで努力すること。
- ・手が空いている時は自分から手伝える事はないか尋ねること。
- ・自分の立ち位置を考えて、学ぶ姿勢で挑戦し行動すること。
- ・会議等で意見を求められた時、自分のアイデアや思った事はきちんと伝えること。

③マネジメント力

- ・時間配分や時間厳守など時間を気にして迅速に行動すること。
- ・提出期限のある仕事やたくさんの仕事を頼まれたとき、何を何時までに終わらせるのか計画や見通しを立てて効率よく仕事をする事。
- ・単純作業でもどうすればもっと早く終わらせることができるかを考えて取り組むこと。
- ・何のためにするのか、今後どのようにしたいのか決めて行動すること。目標を決めると逆算して今は何をすべきなのか分かる。
- ・いつまでに仕事を終わらせるかを決め計画を立ててその仕事に取り組む。
- ・仕事の合間に休憩をとるなど、体調管理をしっかりすること。

④ ビジネスマナー

- ・電話対応等、相手に不快を感じさせないよう丁寧に対応すること。
- ・身だしなみをチェックし敬語の使い方等に気をつけること。

⑤ 問題解決力

- ・与えられた仕事を忘れずにメモをしておき、優先順位をつけ大切なことから早く処理すること。
- ・分からないことはまず自分で調べ、確かめてみる。それでも分からない場合は質問をまとめて質問をする人の手が空いたときを見て聞くこと。

⑥ 柔軟性

- ・その場の雰囲気を読み、臨機応変に対応していくこと。
- ・分からないことがあった時など、周りの様子を見て解決策等、要領をまとめて聞く。
- ・明るく元気に挨拶をするなど、たとえ気分が落ち落ち込んでいたとしてもそぶりを見せない。

⑦ 社会への関心

- ・社会の中で起こっていることや世界の事件や経済状況等に関心を持つとともに、意識・傾向を自分なりにまとめるなど、普段からニュースを聞いて情報を得ること。
- ・今まで経験してきたことや大学で学んでいることと職場の仕事との関連性を考え実践すること。
- ・資料や細かい作業の中から社会の状況を把握したり、言動や表情などからも何をすべきか感じ取ったりするなど周囲の様子を判断し適切に対応すること。

⑧ 傾聴力、読解力

- ・自分が分からないと感じたことはそのままにせず、周りの人に聞いてきちんと理解すること。
- ・窓口に来たお客様からの要望を丁寧に聞き取るとともに関係部署や担当者にきちんと伝え、連携すること。

⑨ 自己表現力

- ・配布資料等を封筒に入れるときでも、資料の向きをそろえたりきれいに折ったりするなど、丁寧な作業に心がけること。

⑩ 創造力、企画力

- ・人と違った観点を持つなど、新しい見方をすること。
- ・企画したイベントをいかに多くの人に見てもらえるか計画段階から考えておくこと。

考察

インターンシップがスタートした2ヶ月後の自己評価と終了時（4ヶ月後）の自己評価では、学生自身の評価が厳しくなるとともに、評価の観点がより豊かになり、到達度目標を高く設定していく傾向が見られた。インターンシップを通して大学で学ぶことの意義や価値を見いだしたり、大学生活の在り方を見つめ直したりするとともに、勤労の意味や自己有用感を感じ取るなど、将来に向けてのライフステージを考えるきっかけにもなったと考える。

効 果

意識の変化

インターンシップを通して、試行錯誤しながらキャリア教育というプロセスを体験させることは卒業後の生きる力として重要なことである。学生たちの中には、何のために学んでいるのか明確なイメージ図を描かないまま大学生活を送っていることが多く、就活の時期になって改めて大学の学びと社会で働くこと、勤労観等について考える学生が多い。具体的な体験や試行錯誤がないまま内省だけをして生きていく力としては極めて脆弱であり、社会に出たときのことを想定した対応をしていかなければならないと考える。

インターンシップを実施する前では「学ぶ」「働く」「生きる」について、3つの要素がそれぞれ個別に乖離していたものが、実施後では、学生たちのイメージが相互につながっていく様子が自己評価等を通して分かるなど、学生の意識に変化が見られた。

1. 学ぶ “大学で学ぶことを見つめ直す”

インターンシップを通して就業に関すること以外でも自分の興味・関心のあることに対してインターネットや図書館等で調べたり学んだりすることが多くなった。研修先の仕事内容に関連する情報収集、検索に時間をかけるなど学ぶ時間も増加した。このことが大学での学習時間の増加にもよい影響を与えていると考える。

・大学での学び方、学ぶ態度

大学で学んでいる専門分野についてさらに深く学ぼうとする姿勢や学び方（アクティブラーニング等）に気づくことができた。学びに向かった集中力や忍耐力、積極性、主体性や日々努力することの重要性を学ぶことができた。

・大学での学びと社会での学びの接続

大学の講義や実習で学んでいることが社会でどう活かされ、関連しているのかを考えるきっかけとなるとともに大学での学びが社会で出たときに役にたっていることに気づくことができた。今後、大学と社会との繋がりを考え、意識して学んでいくことでより充実した大学生活を送ることが出来ると考える。

・コミュニケーションの重要性

ものごとを推進するには協働が大切であり、相互の考えを伝え合い、信頼関係を深めることが重要であることに気づくことができた。さらに自分の考えをしっかりと相手に分かりやすく伝えていくことでより一層信頼関係が深まることが重要であることを感じ取ることが出来た。

2. 働く “責任と自覚、自己変容”

○日々の記録や日記をつけ、自己を振り返るようになった。

- ・メモをとったり、記録・日記をつけたりするようになった。
- ・名前や用件をしっかりと聞き取る癖がついた。

○規則正しい生活を送るようになった。

- ・無駄の排除（SNSなど）、効率化を図る。
- ・体調管理に気をつけるようになった。

- 対人関係に気をつけるようになった。
 - ・以前は課題等を自分で抱えこんでいたが、困ったときに人に相談するようになった。
 - ・感謝の気持ちが増えた。
 - ・学内でも挨拶をするようになった。
 - ・年上の人と関わることに抵抗がなくなった。
- 時間を気にするようになった。
 - ・レポートなどの課題を家でしていたが、学内でするようになり、大学にいる時間が増えた。
 - ・学生の時間は有限だということを体感した。
 - ・時間の使い方に気をつけるようになった。いつまでにやる、今日は何をやる、明日を考えて早く寝るなど時間の意識をもつ。
- 政治や経済、教育など、社会事象、進路に関心を持つようになった。
 - ・人や社会、経済・社会の出来事に興味を持つようになった。
 - ・自分の進路について色々考えるようになった。
- 興味、関心に応じた情報収集や検索時間が増えるようになった。
 - ・電車内の時間を活用し読書をするようになった。
 - ・今までより新聞を読むことを心がけている。
 - ・勉強をするようになった。

3. 生きる “職業観、地域志向の高まり”

日常生活の中でメモや記録等、備忘録を取ることで自分だけのことでなく、常に相手に迷惑をかけないようにしようとする態度や意識の重要さに気付くことができた。時間を守ることはいうまでもないが時間の大切さや時間を有効に活用しようとする態度に意識の変化があった。

このように将来の就職活動に備えて、行政・企業等で実際に仕事をしながら、社会に出るためのビジネスマナー、スキル、マインドを学ぶことができた。さらに研修先から提示される課題に取り組むことで、地元企業や行政等が社会貢献や地域に根付いた活動を積極的に行っていることに関心や魅力・やりがいを感じ、生まれ育った地域社会に貢献したいという地域志向の気持ちも高まってきた。さらに大学生活や自分の将来を見つめ直すとともに社会事象や周囲の人々にも関心を持つようになる等、よりよく生きていこうとする意識に変化が見られるようになった。

まとめ

学生たちは今回の研修を通して、働くことや生きることの意味、大学での学びの在り方等、自己を振り返る貴重な経験ができた。さらに、これまでと違った多様な環境や多くの人々との関わりの中で、自己を見つめ直したり他者を理解したりする評価基準が豊かになり、今後の大学生活に幅が広がったことや大学生活や自分の将来を見つめ直すとともに、社会や周囲の人々にも感心を持つようになるなど多くの成果を得ることができた。